

行政視察報告書

令和6年11月1日

視察委員会名	広聴広報委員会		
報告書作成者	副委員長 福沢 美由紀		
出席者氏名	委員長 伊藤 彦太郎		
	副委員長 福沢 美由紀		
	委員 豊田 恵理 森 英之		
	深水 隆司 古田 吉昭		
欠席者氏名	新 秀隆		
所管課職員氏名		随行職員氏名	西口 幸伸

	視察日	視 察 先	視 察 目 的
1	10月24日	埼玉県さいたま市議会	議会だよりの取組について
2	10月25日	埼玉県寄居町議会	議会だよりの取組について

広聴広報委員会では、「議会だより」について、令和6年10月24日から25日にかけて、埼玉県さいたま市議会及び埼玉県寄居町議会を訪問し、説明を受けた。

●さいたま市議会の取組について

【コンセプト】

平成21年にリニューアルを実施した。

読者層を広げるために、難解な内容をわかりやすく伝え、議会をもっと身近に感じてもらう紙面を作成する。

3つの方針

- ①紙面を読みやすくする
- ②議会の臨場感を伝える
- ③市民の「？」に答える

【具体的な取り組み】

- ・第一印象で手に取りたくなる表紙にやさしいタッチのイラストで堅苦しさをやわらげる。
- ・「ロクヨン」という愛称の採用(インパクトがあり、市民が親しみやすいものに。「覚えやすく」、「発声しやすく」、「視覚的にも印象に残りやすい」ロゴタイプを採用。)
- ・アイコンの使用(視認性と検索性を向上)
- ・とっつきやすい見出しに(一方的な報告ではなく、口語体で市民の疑問に答える)
- ・わかりやすい文章(難解な専門用語や役所言葉などをできるだけ避ける)
- ・写真やイラストの活用(紙面に目を止めるきっかけをつくる。イラストで紙面をやわらかく)
- ・短時間に読みきれぬ量(ポイントを絞った文章で余白を増やし、読み手の負担感を減らす)
- ・議会の役割を伝える(議会の知識を少しずつ身に付けてもらうコーナーを設ける)
- ・市民の声を掲載(インタビューなどを行い、議会に対する市民の声を届ける→双方向性)
- ・ホームページに誘導(詳細情報はホームページの役割)

【名称】

市議会だよりさいたま 愛称 ロクマル

【仕様】

A4版 12ページ フルカラー

年4回定例会ごとに発行、臨時会が開催された場合は臨時会号を発行

【配布】市内全世帯

公共施設（区役所・支所・図書館・公民館など）

市内鉄道駅・市内大学・高等学校・市内商業施設

配布方法は市報と併配とし、委託業者によるポスティング

【主な経費】

- ①企画編集業務 委託料 6,380,000 円
- ②印刷製本業務 委託料 24,150,297 円(限度額) (内訳)8.32 円/部(税抜)
- ③配布業務 委託料 21,953,052 円(限度額) (内訳)7.65 円/部(税抜)
- ④点字版作製業務 委託料 764,000 円 (内訳)191,000 円/号
- ⑤テープ版・デジ版作製業務 委託料 598,400 円 (内訳)136,000 円/号(税抜)

【企画・編集】

民間のノウハウを活用、委員会に委託業者も参加

【委託業務の範囲】

- ①編集会議出席 ②取材(各種調査、インタビュー等)写真撮影
- ③文章原稿作成 ④レイアウト原稿作成 ⑤校正(1~3校)
- ⑥データ納品

※色校、印刷・製本、納品は、「印刷製本業務」として別途業務委託

【企画編集の流れ】

- ①開会前に編集会議を開催（事務局と委託業者）
編集スケジュール、紙面構成や表紙デザイン、「トピックス」等の掲載内容、取材方法について協議、表紙デザインの決定、制作
- ②会期中に、事務局や委託業者は、取材や資料収集、原稿作成を行う。
- ③会期中、議員は質問ダイジェスト(QA)の質問原稿を作る。答弁は事務局が作る。
- ④委託業者が第1稿を作り、委員は意見等を出し合う。
- ⑤意見を反映した第2稿について、議会広報編集委員会にて協議
- ⑥閉会后、第3稿を委員に送付、確認、校了

【その他特徴】

- ・議会広報編集委員会の委員長、副委員長は、正副議長
- ・表紙は柔らかなイラスト。イラストを使っているのは市報など他の広報誌の中でも議会だよりだけなので大切にしている。
- ・表紙をめくるとまず議会のことではなく、見開きでトピックスというコーナーがあり、市民の疑問や関心あること（インタビュー記事など）を掲載している。
- ・議員定数が60人であり質問時間も限られているし、議会だよりへの掲載も限られている。QAには議員の名前も記載されない。

- ・議会の報告はクローズアップというコーナー1ページのみで簡単にまとめられており、表決の記載もない。
- ・アンケートは市のアンケートとともに、ネットアンケートで行う。無料である。
- ・若い人に議会を身近に感じてもらうためさらに大学と連携をしている。大学生にインタビューなどで参加してもらうほか、議会開会の周知ポスターを作ってもらい、アンケートについて学内で知らせてもらうなど工夫している。

◆所感

- ・議会だよりの評価について市民アンケートを実施しているほか、若い世代に関心を持ってもらえるよう大学と連携して学生が議会をどのように思っているかを調査し、学生のポータルサイトに議会だよりを載せていることは、手法として参考になった。
- ・表紙にとってもこだわりがあることが分かった。デザインやテーマなどもしっかりと綿密に計画立てて作り込まれているのが印象的であった。
- ・トピックス、クローズアップと読みやすい記事から掲載するところは、徐々に取り入れていくべきことだと感じた。



●寄居町議会の取組について

【編集方針】

- ・読まれない議会だよりに出す意味なし!
- ・基本姿勢 日本一クオリティの高い議会だよりを目指し編集する。
- ・町民参加 多くの町民登場を心掛け、予算・決算・重要案件には、必ず議会と町民それぞれの視点を掲載する。
- ・政策サイクル 年間の議会の流れと政策サイクルを意識した編集を心掛ける。また、それをわかりやすく町民に伝える。
- ・優先順位 審議結果だけではなく、審議経過を伝え、町民の関心が高いと思われる議案等に優先順位をつけ掲載する。
- ・言葉で伝える 常に読み手を第一に考え、記事は簡潔な表現とし、文体は統一する。読みやすい紙面とするため、行政用語、議会用語は言い換えるか、解説をつける。議案内容及び審議結果がわかるように工夫し、議案に対する各議員の賛否も明らかにする。
- ・写真で伝える 見出しは、できるだけ大きく、記事の内容がわかりやすく、簡潔でインパクトのある表現とする。
写真は、1 ページ(1 記事)に 1 枚以上掲載するよう努め、キャプションは、記事を補完するだけでなく、伝える内容を端的に表すものを選ぶ。
QR コードの活用による関連ホームページへのリンクや、必要に応じて資料映像を作成するなど、様々なメディアを駆使し、記事を補完する。
表紙は、記事との連動性等も考慮し、内容に即したものとする。
一般質問の議員写真は、できるだけ動きのあるものを使用する。

【名称】

「お元気ですか 寄居議会です」(平成 9 年 5 月 15 日創刊)

【発行回数】

編集・・・議会広報広聴特別委員会(第 82 号から)

各定例会後、年 4 回発行 平成 24 年度から 13,000 部印刷(町広報と同数)

【仕様】

A4 平均 16 ページ 2 色刷り (表紙・裏表紙はカラー)

【配布先】

- (1) 町内全世帯(各区長を通じて登録された配布枚数による)
- (2) 関連団体(埼玉県町村議会議長会・近隣自治体・町執行各課・図書館等)
行政区長を通じて配布

【費用】

442 万 5 千円

【議会広報広聴特別委員会】

委員構成 総務経済、文教厚生 の 2 常任委員会から、4 名ずつ委員を選出
※議会委員会条例の改正により、平成 28 年 9 月 29 日に設置した。

【研修等】

- ・埼玉県及び全国町村議会議長会等の議会広報研修、広報クリニックに参加
- ・全国町村議会議長会広報コンクール:平成 20 年度(第 23 回)から出展
平成 25 年度(第 28 回)奨励賞「編集・デザイン部門」受賞
平成 26 年度(第 29 回)入選優良賞(第 7 位)受賞
平成 28 年度(第 31 回)入選優良賞(第 6 位)受賞
平成 29 年度(第 32 回)入選最優秀賞(第 1 位)受賞
平成 30 年度(第 33 回)入選最優秀賞(第 1 位)受賞
令和元年度(第 34 回)入選最優秀賞(第 1 位)受賞
令和 2 年度(第 35 回)入選最優秀賞(第 1 位)受賞
令和 3 年度(第 36 回)入選優秀賞(第 2 位)受賞
令和 4 年度(第 37 回)入選最優秀賞(第 1 位)受賞
令和 5 年度(第 38 回)入選最優秀賞(第 1 位)受賞

【企画・編集】

民間のノウハウを活用、委員会に委託業者も参加

- ①第 1 回委員会 議会前約 1 週間(事前に正副委員長と事務局・委託業者にて原案を協議済み)原案方針決定、一般質問 QA は質問日から 3 日以内に質問答弁とも各議員が作成、提出原稿や写真はメールなどで業者に送付
- ②第 2 回委員会 議会閉会后約 1 週間~2 週間、第一稿を校正 執行部に表現・数値など確認依頼
- ③第 3 回委員会 議会閉会后約 3 週間、第 2 稿を校正 最終調整後 閉会后 4 週間で終了

【その他特徴】

- ・強い意志として『住民参加』があげられる。住民のインタビュー記事に終わらず、住民の関心の高いものは何か、リサーチして住民の話を聞きに行く。
- ・アンケートは、全議員が 10 代から 80 代までの全世代より 16 人の声を直接聞く方法で行われ費用はかからない。
- ・委託事業者とともに委員会を行うことにより、レイアウト、タイトルの付け方、写真の撮り方など、専門的な見地からの意見を聞き、委員のスキルアップが図られる。
- ・議案質疑を個別に載せるのではない。今回どの議案に質疑が集中したのか、どんな議会だったのか、二代表制の視点で、議会全体としての書き方をする。

◆所感

- ・議会だよりの編集方針を定め議員間で共有されており、一人一人の議員における議会だよりの作成の熱意及び行動力のすばらしさを感じた。
- ・議会だよりを実際に手に取ってもらうための工夫や労力は大変なものがあるが、それを議員全員が取り組んでいることに驚いた。
- ・市民が何を见たいのか、知りたいのかを今一度調査研究する必要性を感じた。
- ・市民アンケートを議員一人が年齢層、性別等で16人を担当している。町民一人一人の顔が見える寄居町ならではの手法であり、亀山市では難しいと感じた。



●所感まとめ

- ・さいたま市、寄居町の行政規模の違いはあるにせよ、いかに住民に親しみを感じ購読してもらえよう努力している。また、いずれの議会も議会だよりの編集に際し、議会前に編集委員会を開催し、紙面の内容のデザインを確認している。さらに、委託業者と編集委員会が内容の協議を行っていることが特徴的であった。本市においても参考にすべきところであると感じた。
- ・さいたま市、寄居町ともに業務委託会社への業務分担比重が大きいと感じた。議案質疑、一般質問等のQ&Aは字数制限して、議員個人が作成するのが議員の意識向上と事務局負担軽減に繋がると考える。
- ・さいたま市、寄居町ともに表紙の絵や写真が素敵なのは、民間のプロの力を大いに活用しているが、何よりも編集方針が住民の参加や住民の関心ごとに寄り添っており、議会の報告はそれほど詳しくない。本市とあまりにも違いすぎているが、デザインや写真や文章を磨くために、委員会に委託業者が参加してもらうなどできるのではないかな。

【参考】議会だよりに係る費用比較

	さいたま市	寄居町	亀山市
全体費用※（令和6年度当初予算）	30,530,297円	4,425,000円	2,710,000円
人口（R6.4.1）	1,346,412人	31,894人	49,177人
住民一人当たりの費用	22.7円	138.7円	55.1円

※企画編集作業を含む印刷製本費用で比較